

(シラバス No.23)(関連科目)

科目名	教育と哲学特論	単位数	2単位	科目コード	17P-K2
	Advanced Seminar on Philosophy of Education	形態	選択		
			担当教員	山梨 彰	教職
【授業概要】					
<p>教育哲学は、教育を哲学的・科学的に考察する方法を提起しつつ、同時に今後の教育のあるべき理念を提示することをその任務としている。その際、教育がとりわけ個人と社会の関係性の中での営みであることを忘れてはならない。さらに教育哲学は教育実践を反省的に把握する指針を提供する役割も持つ。19世紀後半からの社会変動の大きな波とともに現代的問題に対応するさまざまな教育哲学が現れた。本科目ではロック、ルソー、コンドルッセ等の古典的な教育哲学者よりもむしろ、デューイ、フレイレ、イリッチ、ノディングズ、フーコー等の20世紀の教育思想を検討していき、日本の教育への示唆を導き出していく。</p>					
【授業の到達目標】					
<p>(1)各回の授業で扱う教育哲学者の文献などに関して、自分の意見をまとめて、他の受講生に説明できること、(2)受講生がよく知っている母校（または勤務校、実習校）の教育理念と実情について、自分の経験も踏まえて分析的にまとめることができること、(3)授業で扱った2人以上の教育哲学者の教育理念をまとめ、日本の学校事情や自分の教育理念と比較しながらまとめ、発表できることを到達目標とする。</p>					
【授業計画】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. コース紹介、自己紹介、理想とする教育理念 2. 教育哲学とその今日的意義。教育思想史概観 3. 旧教育と新教育の相違点 - J. デューイ『子どもとカリキュラム』 4. 学校と社会進歩 - J. デューイ『学校と社会』 5. 学校と子どもの生活 - J. デューイ『学校と社会』 6. 教育における浪費 - J. デューイ『学校と社会』 7. 経験と教育～デューイのまとめ - J. デューイ『学校と社会』 8. 強制のない教育 - I. イリッチ『脱学校の社会』、D. グリーンバーグ『「超」教育』 9. 銀行型教育と課題提起教育 - P. フレイレ『被抑圧者の教育学』 10. ケアリングと継続性 - N. ノディングズ『学校におけるケアの挑戦』 11. モダニズムとポストモダン思想と教育 - 宮寺晃夫「教育研究と『ポストモダンの視点』」 12. K・マルクスの思想と教育、新自由主義思想と教育 13. 教育改革の事例 - 佐藤学『教育改革をデザインする』抜粋 14. 受講生による課題の発表 15. 最終討論 - 日本の教育界への示唆 					
【評価方法】					
<p>到達目標3点を基に以下の要領で評価：到達目標(1)について(デューイのまとめを含む)(コメント作成と発表)。到達目標(2)について(中間課題-レポート)。到達目標(3)について(最終課題-発表)。(以上3項目50%)科目修得試験(レポート50%)。</p>					
【教科書】					
<p>ジョン・デューイ著(市村尚久訳)『学校と社会・子どもとカリキュラム』(講談社学術文庫、1998) 上記の著作以外は適宜プリントを配布する。</p>					
【参考図書】					
<p>新井保幸・高橋勝編『教育哲学の再構築』(学文社、2006) ミシェル・フーコー『監獄の誕生』(新潮社、1977) ダニエル・グリーンバーグ、大沼安史訳『「超」教育』(一光社、1998) 佐藤学『教育改革をデザインする』(岩波書店、1999) 今井康雄編『教育思想史』(有斐閣アルマ、2009) ネル・ノディングズ、佐藤学監訳『学校におけるケアの挑戦』(ゆみる出版、2007) パウロ・フレイレ、小沢有作他訳『被抑圧者の教育学』(亜紀書房、1979) 宮澤康人編『近代の教育思想(三訂版)』(放送大学教育振興会、2003) イヴァン・イリッチ『脱学校の社会』(東京創元社、1977) 青柳宏幸『マルクスの教育思想』(白澤社、2010)</p>					